

- ✓ 人口減少、超高齢社会の進行が見込まれる中でも、将来にわたり暮らしやすさを維持するため、「多核連携都市」を都市構造の将来像として位置づけ。
- ✓ R7年度の都市マスタープラン、都市交通マスタープランの見直しに向け、昨年度、土地利用方針（案）の検討や都市圏交通の実態調査等を実施。

1. 次期都市マスタープラン策定に向けた土地利用の方針（案）について

- ✓ R5年度、「土地利用方針検討委員会」において、人口減少、超高齢社会の進行や産業用地の確保、災害リスク等を踏まえた土地利用の方針（案）を取りまとめた。
 （※R5.7.13 第1回、R5.10.25 第2回、R6.2.2 第3回、R6.3.26 第4回）

(1) 土地利用方針（案）の概要

【市街化区域の土地利用】

- 人口減少等を踏まえ、市街地は原則として拡大せず、課題に適応可能な市街化区域の規模とすることで、市民の生活利便性の確保を図る。

〈中心市街地〉

- 各種規制の緩和等により、老朽建築物の建替えや低未利用地の有効活用を促進し、災害に強く、賑わいのある都市空間の創出を図る。

〈地域拠点・居住誘導区域〉

- 地域拠点圏域や公共交通の利便性が高い鉄道駅周辺等では、用途地域の見直しによる土地利用規制の緩和や地区計画制度の活用等により、都市機能の維持・確保や居住の誘導を図る。

【市街化調整区域の土地利用】

〈既存集落ゾーン〉

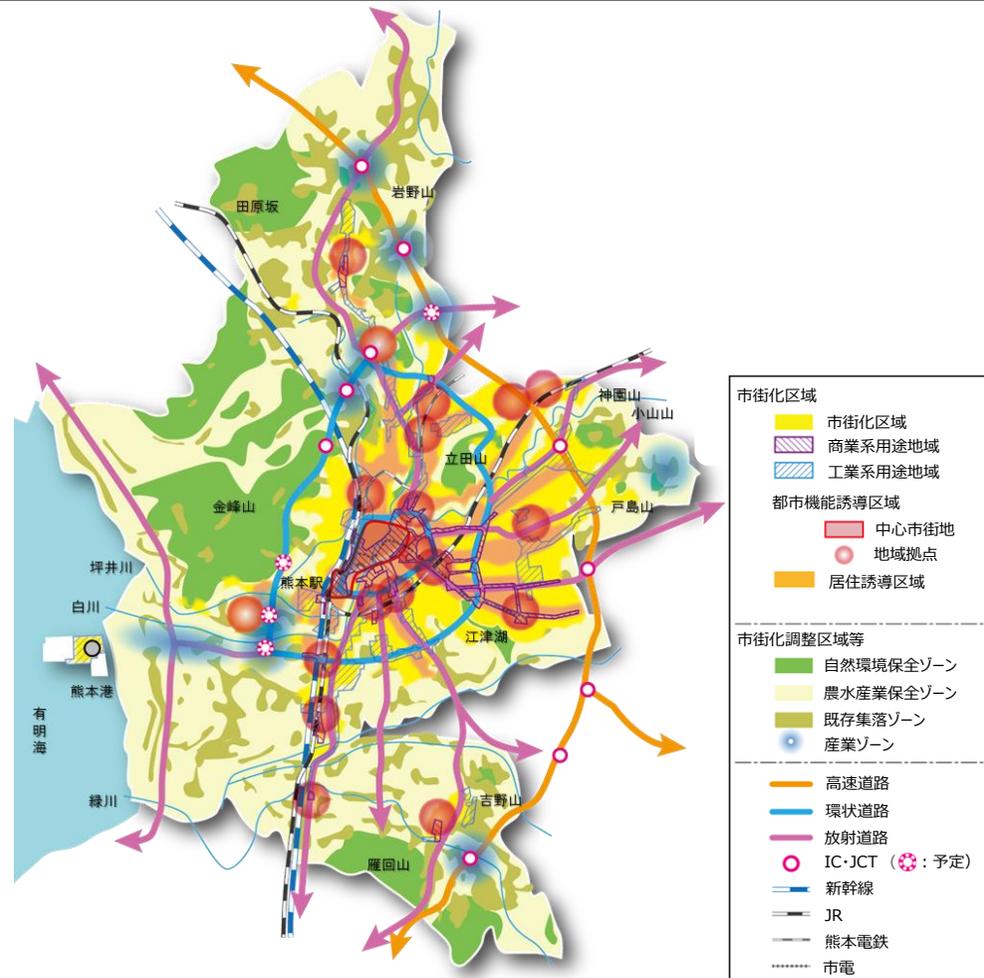
- 生活拠点では、地域コミュニティや地域特性に応じた生活利便性を維持するため、地区計画制度により、災害リスクに対応した良好な居住環境の維持・確保を図る。
- 集落内開発制度については、市街化調整区域の性格を踏まえ、新たな制度設計の検討を含め、「地域コミュニティの維持」に即した制度運用を図る。

〈産業ゾーン〉

- 新たに立地する工業や物流業等の産業については、自然環境等との調和を図りつつ、高規格道路のインターチェンジ周辺など、広域交通の利便性が高いエリアに誘導を図る。

【災害リスクを考慮した土地利用】

- 市街化区域において、事前の予測・避難が難しく、人命損失のリスクが高い土砂災害等の恐れがあるエリアでは、地域の実情を踏まえ段階的に市街化調整区域へ編入する。



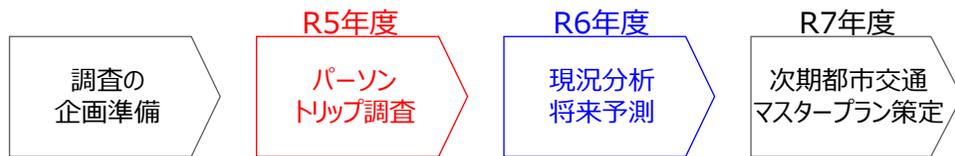
(2) 今後の予定

	R5	R6 4月	7月	10月	1月	R7
土地利用の方針（案）		次期都市マスタープラン検討（立地適正化計画含む） ●現マスタープランの振り返り ●各分野の方針などの検討 ●立地適正化計画の見直し など 各制度の具体的な検討				
		※検討状況等を適宜、議会や都市計画審議会へ報告				

次期都市マスタープラン策定

2. 次期都市交通マスタープラン策定について

- ✓ 熊本都市圏における都市交通の将来ビジョン「熊本都市圏都市交通マスタープラン」の改訂に向け、R5年度、県市合同で、交通に関する実態調査（パーソントリップ（PT）調査）を実施。
- ✓ R6.5.30に学識経験者、行政機関、交通事業者、経済団体等で構成する「熊本都市圏総合交通計画協議会」を開催しPT調査の結果等を報告。
- ✓ 今後、現況分析・将来予測を実施し、R7年度中の策定に繋げる。



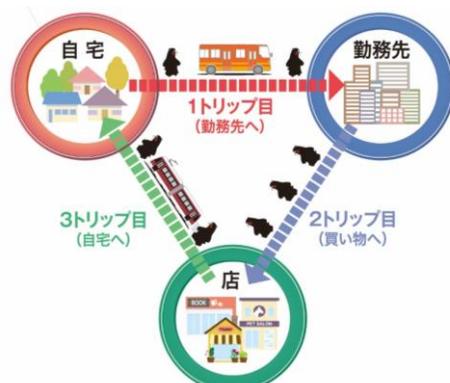
▲図2 都市交通マスタープラン策定までの流れ

(1) パーソントリップ（PT）調査の概要

- パーソントリップ（PT）調査とは
- 「人」の「目的を持った移動」を把握するため、「誰が、いつ、どこに、何の目的で、どのような交通手段で」移動したか等についてアンケート調査を行い、1日のすべての移動を捉えることが目的。 ※トリップ：人がある地点から他の地点へ目的を持ってする移動
- 約10万票（約5万世帯）を配布し、約3万票（約1.7万世帯）を回収。（回収率35%）

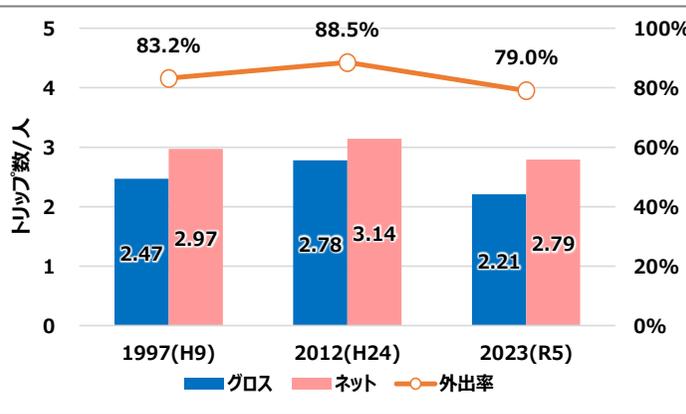


▲図3 調査対象圏域（5市6町1村）



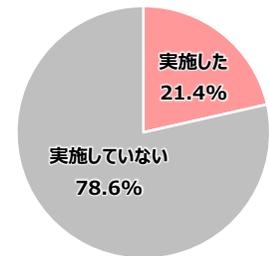
▲図4 トリップの例

(2) パーソントリップ（PT）調査の基礎集計結果

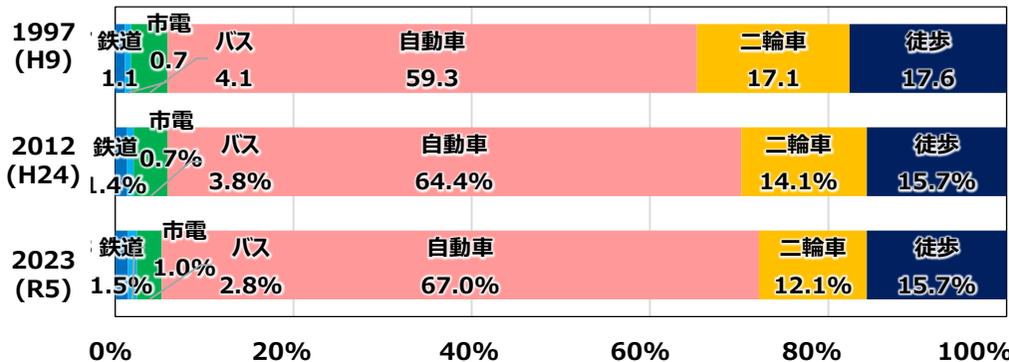


▲図5 外出率の変化

※グロス：人口1人あたりの平均トリップ数
 ※ネット：外出人口1人あたりの平均トリップ数
 ※外出率：外出人口が全人口に占める割合



▲図6 外出していない人のうち在宅勤務をした人の割合



▲図7 交通手段分担率の変化

(3) 今後の予定

R5	R6 4月	7月	10月	1月	R7
PT調査 ●調査準備 ●調査実施 ●基礎集計	都市交通マスタープラン検討 ●現況分析 ●将来像検討（目標、施策、評価項目） ●交通需要予測、残存課題整理、提案施策				次期都市交通マスタープラン策定

※検討状況等を適宜、議会へ報告